

2026/08/24 M4 メルマガ AI 選別葬儀業界ニュース

1. 「墓じまい」10年で倍増、樹木葬への不可逆的なシフト

URL: <https://www.fnn.jp/articles/-/1095872>

要約: 厚労省によると、墓を撤去する「墓じまい」が10年で倍増の17万6000件に達しました。遠方や後継者不在による管理負担の回避が主な理由で、維持費が安く管理が不要な「樹木葬」への関心と移行が急速に高まっています。

なぜこれが重大なニュースなのか: 「10年で倍増」という国の公式データが、単なるブームではなく「社会の構造的な変化」を裏付けたからです。先祖代々の墓石を建てるという伝統的なビジネスモデルが終焉を迎えつつあり、供養のパラダイムシフトが決定的なフェーズに入ったことを明確に示しています。

【The Good, The Bad, and the Ugly】

- **The Good**(良いこと): 墓の管理という次世代への精神的・経済的負担が解消され、現代のライフスタイルに合わせた合理的な供養が可能になります。
- **The Bad**(悪いこと): 墓石を扱う石材業界や、檀家からの管理費・お布施に依存してきた寺院の経済基盤が急速に崩壊します。
- **The Ugly**(ヤバイこと): 親族間の同意形成が不十分のまま墓じまいを強行して起きる泥沼のトラブルや、行き場を失った遺骨が最終的に「無縁仏」として社会問題化するリスクが高まります。

2. 自治体における「無縁遺体」の火葬放置問題

URL: <https://www.yomiuri.co.jp/national/20260819-GYT1T00080/>

要約: 横浜市は2026年8月19日、引き取り手のない無縁遺体の親族調査などを怠り、最大1年半以上も火葬せず遺体を放置したとして担当職員を懲戒処分しました。警察から引き継いだ8人の遺体への対応が遅れていました。

なぜこれが重大なニュースなのか: 孤独死や身寄りなし問題の最前線である「自治体の対応能力」が限界に達し、システムエラーを起こし始めている実態が明るみに出たからです。引き取り手のない遺体の増加は、遺体安置所の逼迫を招き、葬祭業界全体へのシワ寄せ(業務委託の限界や火葬待ちの深刻化)に直結する警告的なインシデントです。

【The Good, The Bad, and the Ugly】

- **The Good**(良いこと): この異常な事態が発覚したことで、自治体の無縁遺体に関する業務フローが強制的に見直され、民間葬儀社との連携体制の再構築の契機になり得ます。
- **The Bad**(悪いこと): 自治体において、専門知識と倫理観を持つ人材の不足、そして業務のパンクが常態化しているという厳しい現状が明らかになりました。
- **The Ugly**(ヤバイこと): 長期間の放置により故人の尊厳が著しく損なわれるだけでなく、限られた遺体安置施設を占有し続けることで、一般市民の葬儀(火葬待ち)にまで物理的・衛生的な悪影響を及ぼす事態に陥ることです。

[墓じまいの現状と樹木葬への移行](#) この動画は、先ほど紹介した「墓じまい」急増のニュースの背景と、樹木葬によって活路を見出す寺院の実態を映像で分かりやすく解説しており、現場のリアルな空気感を掴むのに役立ちます。

3. 千葉県松戸市と鎌倉新書が「終活に係る連携に関する協定」を締結

要約:

鎌倉新書は8月20日、千葉県松戸市と「終活に係る連携に関する協定」を締結した。高齢化率25.7%の同市において、エンディングノートの配布や終活講座、専用ダイヤルでの相談を通じ、市民の終活課題の解決を官民協働でサポートしていく。

URL: <https://www.kamakura-net.co.jp/newstopics/12576/>

なぜ重大なのか:

多死社会を迎え、地方自治体だけでは市民の終活課題(孤独死、無縁遺体、死後事務など)に対応しきれず、民間企業との提携が不可欠なフェーズに突入したことを示しているからです。行政の信頼性と、民間プラットフォームのノウハウを掛け合わせたこの官民連携の終活支援モデルは、今後全国の自治体に波及し、葬祭業界における「顧客接点」の入り口が大きく変わるパラダイムシフトの根拠となります。

The Good, The Bad, and the Ugly:

The Good (良いこと): 市民が行政の窓口や公式の相談ダイヤルを通じて、無料で質の高い終活情報を得られるようになり、将来への安心感が醸成されること。

The Bad (悪いこと): 行政の入り口を大手プラットフォームが握ることで、地域に根ざした中小葬儀社が直接顧客と接点を持つ機会が奪われる懸念があること。

The Ugly (ヤバいこと): 孤独死や身寄りなし問題が激増しており、もはや「自治体の既存福祉窓口だけでは実務的・財政的に破綻寸前である」という日本の厳しい現実が浮き彫りになっていること。

4. 多死社会を支える「終活ビジネス」の産業化・成熟化を経済メディアが指摘

要約:

NetIB-Newsは多死社会における終活ビジネスの現状を報じた。独居高齢者の増加により、これまで家族が担ってきた身元保証や死後事務を第三者に委託する需要が急増。家族に代わる「終身サポート産業」としての成熟と法整備が急務となっている。

URL: <https://www.data-max.co.jp/article/86542>

なぜ重大なのか:

これまで「血縁・家族」が担うのが当然とされてきた身元保証や死後の手続きといった領域が、経済メディアにおいて完全に「外部委託すべきビジネス・産業」として扱われているためです。葬祭業にとっても、単に「お葬式を施行する」という点から、「生前から死後までを包括的に請け負う終身サポート事業」へと自らの業態を広げなければ生き残れないという、業界再編の根拠となるニュースです。

The Good, The Bad, and the Ugly:

The Good (良いこと): 身寄りのない独居高齢者でも、お金を払えば尊厳ある最期と確実な死後の手続きをプロに任せられる選択肢が社会に整備されること。

The Bad (悪いこと): 成長市場であるがゆえに悪質な代行業者も参入しやすく、契約や金銭をめぐるトラブルなど消費者被害の発生リスクが高まること。

The Ugly (ヤバいこと): 家族の絆や地域コミュニティの相互扶助が崩壊し、「家族の代替機能」すら金銭で買わなければならない、究極の自己責任・資本主義社会が到来していること。